
人類の希望

深紅色の鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人類の希望

【Nコード】

N8401Y

【作者名】

深紅色の烏

【あらすじ】

2030年、地球。人類は、人口爆発による食糧危機を乗り越え栄えていた。

その一方で、強大な科学力を持つことによる驕りもでき始めていた。長野県松本市、神奈川県箱根町。

突然、この2つの町とその周辺の町が壊滅する。

原因は、不明。しかし、遙か彼方の宇宙に生命が存在する惑星があることを考えると、1つの説が立った。宇宙からの侵略者。

人類と人類の科学戦争の中で1人の男が動き始める。

人類の変化の可能性について、描くSFになる予定。
エヴァンゲリオン要素が入っていますが、エヴァの世界とは関係が
ありません。現実世界が舞台となっています。

科学的なことは、あまり考えていませんので、「リアルじゃない」
という感想につきましては、スルーさせていただきます。

2030年という設定なので、現在とは違う国家・自治体等が存
在します。

1 全ての始まり ～松本市、壊滅～（前書き）

この物語は、フィクションです。実在する国家・自治体・人物・組織などの名前とは、全く関係がありません。ご了承ください。

エヴァンゲリオン要素が入っております。

1 全ての始まり く松本市、壊滅く

西暦2030年9月13日。午前9時13分13秒。

長野県全域を激震が襲った。大地が裂けんばかりに揺れ、大きな音が響いた。

人々は、避難所へ行き、ラジオを聞きながら、地震の情報を知らうとしていた。

しかし、ラジオからは、全く地震の情報は入ってこない。

それもそのはず。これは地震ではなかったのだ。

そう、人類の変化の時の始まりだった。

危機管理対策委員会 本部。

危機管理対策委員会とは、自然災害、人災、戦争など予想される全ての危機について情報を収集し、対策を立てる委員会である。委員長は、秋山^{あきやま} 大佐^{たいすけ}だ。

委員長室にあわてた様子で一人の男が入ってきた。年齢は、30代前半あたりだろうか。きちつと整えられた服装とイケメンに分類されるであろう顔。なかなか爽やかそうな青年だったが、かなりあわてていた。彼が慌てていた理由は長野での揺れだった。入ってきた男、希崎^{まれさき} 重治^{しげはる}副委員長は秋山に報告をした。

「長野県・山梨県を中心とする地域に地震と思われる震動があったようです。」

「何!? 地震か?」

「分かりません。『垓』は、3%が自然災害、4%が北派による攻撃、2%が謎の侵略者による攻撃、あとの91%は解析不能を示しています。」

「垓」とは、日本で新たに作られた超未来型汎用電子計算機のことであり、京をさらに進化させたものである。演算速度毎秒1垓回

を目標としており、現在は毎秒1384京回が限界である。しかし、開発は続けられていて、さらなる進歩も期待されている。「垓」は、汎用高速電子計算機が100台組み込まれていて、それぞれが独自に判断し独自に答えを出す。それを、垓のメインコンピュータがまとめてモニターに表示されるという仕組みなのだ。

垓は、現在日本政府直属の組織、超電子計算機開発機構の施設にあり、さまざまな計算依頼をこなしている。

「とにかく、長野に状況を確認しろ！長野市、安曇野市、松本市、諏訪湖市、伊那市、駒ヶ根市、飯田市に確認を取れ！」

秋山が命令をする。希崎は、返事をする。委員長室を出て行った。秋山も、委員長室を出て、大会議室へ向かった。大会議室では、既に対策本部がつくられていた。秋山が対策本部となっている大会議室に入ると、さっそく希崎からの報告があった。

「長野市、安曇野市、伊那市、駒ヶ根市、飯田市は、応答がありました。被害は住宅の損壊などだそうです。松本市、諏訪湖市はまだ連絡が取れません。調査へりを向かわせていますが、もしかしたら・・・」

そのとき、調査へりからの連絡があった。

「大変です。松本・塩尻・諏訪の周辺に大きなクレーターのような物ができています。諏訪湖はおそらく蒸発したものと思われれます。松本市、諏訪湖市は壊滅したと思われれます。」

この報告に、大会議室にいたもの全員が驚きの表情を見せた。いつも冷静な希崎は、他の人と比べれば冷静だったが、驚きを隠せない様子だった。秋山は、垓が示した分析データを基にこう命令した。「まずは、自然災害の可能性を探れ。そして、北派の可能性はないか、防衛省と朝鮮半島連合共和国に確かめろ。とりあえず、それからだ。」

この命令に、大会議室にいた委員たちは動き出した。一部では、コンピュータと睨みあって自然災害の可能性を探っている。一部で

は、防衛省や朝鮮半島連合共和国に連絡をし、確認をしていた。

北派と朝鮮半島連合共和国について解説しておこう。

北派とは、旧北朝鮮に住んでいた者の中でも、特にアメリカや旧韓国、日本などに対し攻撃的な行動をとる者のことをいう。南北統一により、北朝鮮と韓国は和解し、一つの国となったが、まだ北派はかなりいるという状況だ。しかし、現在は、日本政府の防衛省やアメリカの特別対策委員会、朝鮮の北派對策庁などの監視により、大きな事件は起きていない。ただ、危険性が全くないというわけではない。

朝鮮半島連合共和国は、2021年にできた国家。通称は朝鮮。キム・ジョンイル金正日（1941 - 2015）の死後、北朝鮮と韓国が和解、統合したものである。議院は、旧北朝鮮の北院と旧韓国の南院に分かれている。まだ、完全な統合とは言えないが、かなり南北和解は進行しているのだ。

そして、調査の結果が分かった。

「自然災害の可能性は、おそらくありません。さらに、北派幹部及び協力者と思われる人物は、防衛省やアメリカ、朝鮮がマークしています。北派の攻撃行動でもないかと。」

秋山は、残された一つの可能性に驚いた。「垓」が導き出した答えは、宇宙からの侵略者だったのだ。

「ばかな……、アニメや漫画じゃあるまいし……。そんなことが……。」

秋山は、ただ立ち尽くしていた。

1 全ての始まり ～松本市、壊滅～（後書き）

諏訪湖市について説明をします。

長野県中部にある都市。諏訪市、下諏訪町、岡谷市が合併して誕生した。市役所は、旧岡谷市にある。（合併とともに新たに建設された）

ちなみに、ここが合併するなんてありえない・・・とかそういうのもスルーさせていただきませう。なにしろ、初心者ですので、地元感情とかあまり考慮していませんので。

松本市、塩尻市、諏訪市、岡谷市など、松本・諏訪地域にお住まいの方には、お詫びを申し上げます。なぜ、ここになったかといいますと、エヴァンゲリオンで第2新東京市となっているからです。別に個人的恨みというわけではありません。

2 謎の目的（箱根、壊滅）

「本当に、北派でも自然災害でもないんだな？」

秋山が重い口調で、部屋にいた全員に確認をした。希崎が秋山の質問に代表して答える。

「はい、ほぼ100%ないと思います。」

秋山は、希崎の言葉を聞き、しばらく目を閉じて考えていた。そして、目を開けて、こう言った。

「では、この爆発は、『太陽系外に存在する未確認文明による攻撃行為』と判断する。すぐに、アテーナー（Athena）へ連絡しろ！」

秋山の命令に、数人の委員が返事をし、電話をかけた。

国連直属の組織、特殊機関アテーナー（Athena）とは、地球外の文明との戦争の全てを取り仕切る組織である。東都大学の教授である森崎^{もりさき} 秀樹^{ひでき}が地球外に文明がある可能性を92%、そしてその文明のうちの45%が地球への攻撃を考えたとした研究結果を発表したことで、できた組織である。地球外文明との戦争においては、国家をも動かすほどの権限も持つ。本部は、東京都旧三鷹市にある。（三鷹市は、アテーナー建設のため消滅、住民は八王子市などへ移住した）なぜ三鷹市にこだわったのかは、まだ明らかにはされていない。かなり、謎に包まれた組織である。

そして、アテーナーの最高責任者である、総長の山本^{やまもと} 権太^{ごんた}を先頭に、アテーナーの職員が部屋へ入ってきた。連絡を受けて、霞ヶ関にある本部へかけつけてきたようだった。

「秋山委員長、本件はこれより、アテーナーの指揮のもとで調査等の活動を行ないます。あなたたちは、アテーナーの指示に従ってもらうこととなります。よろしいですね？」

と、山本が秋山に言った。秋山は、「承諾の返事をした。」

アテーナーの職員は、危機管理対策委員会本部にある資料をまとめてダンボール箱に入れると、部屋を出ていった。最後に、山本だけが残った。山本は、

「とりあえず、危機管理対策委員会は、情報収集をお願いします。何かありましたら、三鷹のアテーナー本部へどうぞ。」

と言うと、部屋を出て行った。秋山は、それを苦い顔をして見ていた。

午後2時21分02秒。再び強い揺れが、今度は東京・神奈川・静岡を襲った。危機管理委員会はもちろんのこと、三鷹のアテーナー本部も大きく揺れた。

「おい、確認を取れ！大田区、横浜市、小田原市、富士市、静岡市、相模原市だ！急げ！」

と秋山が大声をあげていた。すぐに、報告がかえってきた。

「大田区、確認取れました！」

「横浜市、応答しています！建物の損壊等です、大きな異常はありません！」

「だめです！小田原市、応答しません！」

「富士市、確認しました！」

秋山は、これらの報告から、中心地は小田原市周辺と判断し、この周辺の市町村に連絡をするように命令した。

「熱海市・三島市・沼津市が応答なし、伊豆市・伊東市・厚木市が応答あります。」

と報告がかえってくる。そして、秋山が派遣したヘリからの連絡が入ってきた。

「箱根町を中心とした半径約25kmの範囲がほぼ壊滅状態です！今度は、箱根だった。ヘリから映像が送られてきた。その映像がコンピュータの画面に映し出される。委員の多くは、画面を見て愕然とした。芦ノ湖は、完全になくなっていた。小田原も熱海も三島も

跡形もなく消えていた。関東有数の観光地が一瞬にして消滅したのだ。おそらく、かなりの威力を持つ兵器による物だろう。本当に我々はこの文明に勝てるのか。秋山も希崎も、その気持ちのほとんどを占めていた。危機管理対策委員会の本部を重い雰囲気包み込む。秋山は、この情報をアーテナー本部へ連絡した。

アーテナー本部、山本は、秋山からの連絡を聞いて驚いた。文明の兵器が予想以上の威力を持っていたからだ。それと同時に疑問も浮かんだ。なぜ、松本と箱根なのか・・・と。東京や大阪、名古屋、横浜とほかに大都市はたくさんある。しかし、謎の文明は、松本と箱根を攻撃した。次は東京だぞ、という脅しなのか。それとも、松本と箱根に何かあるのか。いくら考えても分からなかった。

とある場所の会議室。

「くそっ！箱根も違ったか・・・。」

「残るは、宇部だな・・・。」

「しかし、このデータは信頼できるのか？カインは本当に宇部にいるのか？」

「分らん、しかしやるしかない。カインは絶対に殺さなければいけない。」

「こんな声が響いていた。」

「ああ、その通りだ。カインが地球人と接触したら、厄介なことになる。」

2 謎の目的（箱根、壊滅）（後書き）

箱根、小田原市、熱海市、沼津市などの市町村にお住まいの方、申し訳ありません。ここも仕方ないですよ……。エヴァンゲリオンで第3新東京市があるというのが理由です。でも、この物語はエヴァの世界が舞台ではありませんが。

アーテナー、登場しました。エヴァでいうNERVみたいなものです。エヴァ色が濃くなっている気がします。気にせずいきたいと思います。なぜ、三鷹なのかは、永遠の謎ということにしてください……。

カイン。彼は何者なのか、それはこれから分かります。楽しみに。

3 伊吹純香 ? 〱頭痛〱

愛知県新瀬戸市の地下にある巨大な空間。その中に、1つの建物があった。建物は、高層ビルのような形をしていた。かなり大規模な建物のようだ。だが、中にいる人は、1人だけだった。青年が一人いるだけだった。部屋の中には、機械がたくさんあった。そこには、松本・箱根のデータが映っていた。

「ついに、この時が来たか……。人と地球は、僕が守る……。それが、僕の懺悔でもあり、使命でもあるから……。」

青年がつぶやいた。青みがかかった髪、整った顔立ち、なかなかの美青年だ。そして、机の上に置いた写真と名前などの個人情報を見ていた。そこには、「伊吹^{いぶき} 純香^{あやか}」と書かれていた。

「伊吹純香か……。早く接触する必要があるな……。」

新東都大学の校門に、1人の女性が立っていた。誰かを待っている様子だった。仕事の合間に寄ったような感じで、スーツを着ていた。胸には、Athenaのバッチがあった。彼女の名前は、浅井^{あさい}レイ。Athenaの技術部 システム課 課長 兼 「Gates^{イッ} (Athenaが独自に開発したスーパーコンピュータ)」 総合責任者を務めている。新東都大学で、機械学を専攻し、大学でもトップクラスの成績をおさめたこともある。かなり優秀なコンピューター技術者で、山本からも信頼されている。

浅井は、校門の前でしばらく待っていた。しばらくすると、浅井のもとに1人の女性がやってきた。大学生だろうか。20歳くらいの女性だった。その顔は、青年が見ていた写真と全く同じだった。

「純香、少し力を貸してほしいけど、だめかな？」

と、浅井は純香に言った。純香は、もちろんと承諾した。そして、浅井が乗ってきた車の助手席に乗った。

女子大学生の名前は、伊吹純香。あの青年が見ていた女性である。新東都大学 機械学部 コンピュータ技術科を専攻している。コンピュータ技術に関しては、新東都大学一と言っても過言ではないほどの能力を持つ。浅井は、彼女の能力を高く評価している。彼女を高く評価しているのは、浅井だけではない。超電子計算機開発機構 やつくば未来的技術研究所など、さまざまな研究機関が彼女を技術者として入所させようとしている。Athenaも、伊吹には目を付けていて、現在交渉を進めている。伊吹は、まだ自分は未熟であるとして、断り続けているが、浅井の頼みは、ほとんど承諾している。伊吹にとつて、浅井は一番頼りになる先輩なのだ。

「うっ……。」
車の中では、伊吹が手で頭をおさえていた。浅井が、あわてて車を止めるが、伊吹は大丈夫だと言った。そして、頭痛のことについて話し始めた。

「最近、激しい頭痛がするようになったんです。そして、なぜか地図のイメージがそのときに浮かびあがるようになって……、おそらく愛知県の新瀬戸市あたりだと思います。」
と伊吹は言った。苦しそうに手で頭をおさえる。歯をくいしばって痛みに耐えているようだった。浅井は、伊吹に頼んだ仕事をやめましょうかと悩んだ。だが、今さら、なかったことにするのも、面倒だったし、伊吹もそれを望んでいないだろう。そう考えて、車を再び走らせた。

「浅井課長からの連絡です！伊吹純香が到着するようです！」

職員からの声を聞いて、山本は立った。伊吹を呼んだのは、山本と浅井だった。これから、松本・箱根への攻撃の目的を「Gate s」で計算する必要がある。その計算作業は、かなり複雑だった。そのため、浅井やシステム課の職員だけで行なってもいいのだが、少し厳しい。そこで、優秀な伊吹が呼ばれたというわけだった。

「そうか……、奴らの目的を早く知らなければならぬ……。な

ぜ松本なのか・・・、なぜ箱根なのか・・・、くそっ！全く分からん！」

山本がつぶやいた。

「カインは、どこにいるんだ！」

「分からん・・・、しかし、現在は宇部市が可能性としては高い。」

「仕方が無い、アレスの矢を宇部市に落とすしかないな。」

「ああ・・・、それしかない。早くカインを殺さねば・・・、我らの邪魔になつてしまう！」

敵軍の会議室には、こんな声が響いていた。

3 伊吹純香 ? 〽頭痛〽 (後書き)

新瀬戸市・尾張旭市・長久手町・瀬戸市が合併してできた市町村。市役所は瀬戸市にある。現在、名古屋市との合併を協議中。

一応、イメージ的には、浅井がリツコで伊吹がマヤ(そのまんまです・・・)という感じです。レイは、綾波レイから。純香は、小泉純一郎から(もともと、苗字を泉として使う予定だった)です。今回は、カインの謎が少し分かるかもしれません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8401y/>

人類の希望

2011年11月29日02時54分発行